

【報道関係各位】

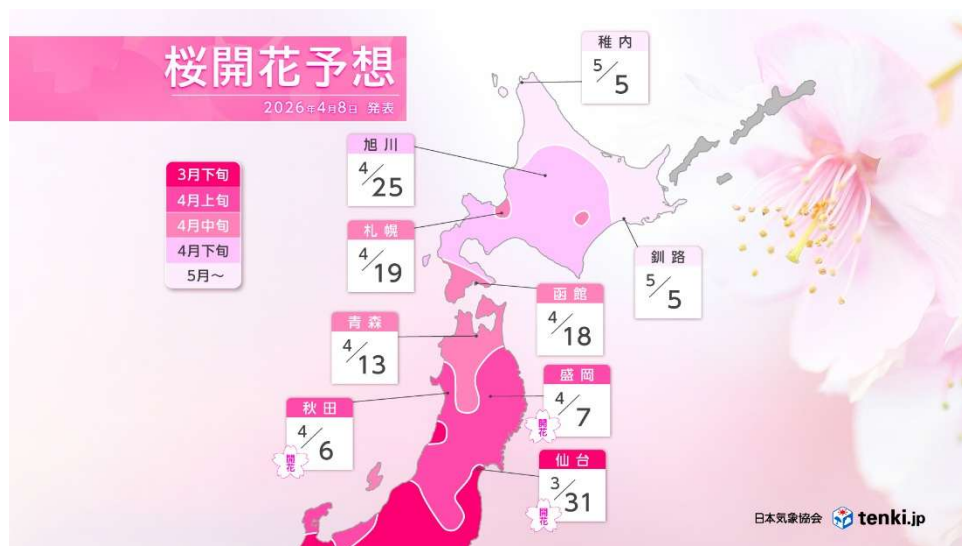
2026年4月8日
一般財団法人 日本気象協会

2026年 桜開花・満開予想（第4回） 桜開花前線は北日本へ 平年より10日ほど早く咲く所が多い

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、理事長：渡邊 一洋、以下「日本気象協会」）は、日本全国84地点の桜開花・満開予想（第4回）を、2026年4月8日（水）に発表します。

桜開花・満開予想は、天気予報専門メディア「tenki.jp（てんきじえーびー）」桜開花・満開予想ページ（<https://tenki.jp/sakura/expectation/>）にて毎週水曜日（水曜日が祝日の場合は木曜日）に発表します。

開花予想前線図



開花・満開予想日(主な地点)

桜開花・満開予想 2026		開花済み		満開		2026年4月8日発表	
地点	開花 予想日と平年比	平年開花日	昨年開花日	満開 予想日と平年比	平年満開日	昨年満開日	
釧路市	5/5 かなり早い	5/16	5/7	5/7 かなり早い	5/19	5/9	
札幌市	4/19 かなり早い	5/1	4/23	4/23 かなり早い	5/6	4/27	
青森市	4/13 かなり早い	4/22	4/17	4/17 かなり早い	4/26	4/22	
秋田市	♥ 4/6 かなり早い	4/17	4/15	4/9 かなり早い	4/22	4/18	
仙台市	♥ 3/31 かなり早い	4/8	4/4	✿ 4/4 かなり早い	4/13	4/10	
東京	♥ 3/19 早い	3/24	3/24	✿ 3/28 早い	3/31	3/30	
長野市	♥ 3/31 かなり早い	4/11	4/8	✿ 4/6 かなり早い	4/16	4/13	
新潟市	♥ 3/31 かなり早い	4/8	4/6	✿ 4/3 かなり早い	4/13	4/9	
金沢市	♥ 3/29 早い	4/3	3/29	✿ 4/3 早い	4/8	4/6	
名古屋市	♥ 3/17 かなり早い	3/24	3/26	✿ 3/30 早い	4/2	4/4	
大阪市	♥ 3/26 平年並	3/27	3/27	✿ 4/3 平年並	4/4	4/4	
広島市	♥ 3/19 早い	3/25	3/26	✿ 3/30 早い	4/3	4/2	
高知市	♥ 3/16 早い	3/22	3/23	✿ 3/31 平年並	3/30	3/28	
福岡市	♥ 3/24 平年並	3/22	3/25	✿ 4/3 遅い	3/31	3/28	
鹿児島市	♥ 3/27 平年並	3/26	3/24	✿ 4/5 平年並	4/5	4/7	

※釧路市はエゾヤマザクラの予想



2026 年桜の開花/満開まとめ

西日本と東日本では、平年より早い開花と満開になった所が多くなりました。また、北日本では、3 月から気温が高い状態が続き、4 月以降も高温傾向が予想されています。このため、北日本では平年よりかなり早く開花し、満開となる所が多いでしょう。

開花の傾向

九州から東北南部では、すべての地点で開花し、平年より早い開花になった所が多くなりました。

北日本では、4 月 2 日に山形、6 日には秋田、7 日には盛岡で開花し、桜の開花は平年よりかなり早いペースで東北地方を北上しています。この先、東北北部および北海道でも、平年よりかなり早い開花となる所が多いでしょう。青森の開花は 13 日、札幌の開花は 19 日の見込みで、青森は過去 2 番目、札幌では過去 3 番目の早さでの開花となりそうです。

満開の傾向

九州から東北南部の各地で桜の満開も進んでいます。九州、四国ではほぼ平年並みの満開となる所が多くなりましたが、中国地方から東北南部では、いずれも平年より早い満開となっています。新潟は平年より 10 日早い 4 月 3 日に、山形では平年より 12 日早い 4 月 6 日に満開を迎え、九州の各地とほぼ同じ時期での満開となりました。

この先、東北北部および北海道でも、平年より 10 日程度早く満開となる所が多いでしょう。青森の満開は 17 日、札幌の満開は 23 日の見込みで、青森は過去 3 番目、札幌では過去 2 番目の早さでの満開となりそうです。

全国 84 地点の桜開花・満開の予想日は、日本気象協会が運営する天気予報専門メディア『tenki.jp (てんきじゃーぴー)』桜開花・満開予想ページ (<https://tenki.jp/sakura/expectation/>) にて公開しています。

【言葉の説明】

平年:1991～2020 年の平均値

かなり早い	:平年よりも 7 日以上早い
早い	:平年よりも 3 日から 6 日早い
平年並	:平年との差が 2 日以内
遅い	:平年よりも 3 日から 6 日遅い
かなり遅い	:平年よりも 7 日以上遅い

以 上



参考資料

桜開花・満開予想に関するよくあるご質問

Q1: 桜開花・満開予想の報道発表(プレスリリース)のスケジュールは?

A1: プレスリリースは以下の日程を予定しています。今年の桜開花・満開予想は今回が最終報となります。

- 第1回 1月29日(木)
- 第2回 3月4日(水)
- 第3回 3月18日(水)
- 第4回 4月8日(水)

なお、プレスリリースとは別に、天気予報専門メディア「tenki.jp」では、桜開花・満開予想を定期的に更新します。桜開花・満開予想ページ(<https://tenki.jp/sakura/expectation/>)では、開花予想・満開予想を、毎週水曜日(水曜日が祝日の場合は木曜日)に更新し発表します。

Q2: 開花日・満開日の基準は?

A2: 気象庁の観測基準と同じです。開花日は標本木で5~6輪以上の花が咲いた状態となった最初の日、満開日は標本木で80%以上のつぼみが開いた状態となった最初の日です。

Q3: 予想する地点数は?

A3: 1月、2月中は53地点、3月以降は全国で84地点の予想を発表します。予想地点は、各地の気象台が観測する標本木53地点と、自治体・公園などの協力機関から観測データを得られる31地点となります。

Q4: 日本気象協会の桜開花予想の手法・特徴は?

A4: 花芽(はなめ)の生育過程に大きな影響を与える「秋以降の気温経過」に重点を置いた独自の予測式を用いて開花予想を行っています。各地の気象台の標本木や公園などの協力機関による正確な観測データを重視した、気象学的根拠に基づいた予想を出しているのが特徴です。

日本気象協会は2007年から桜の開花予想を実施しており、2026年で20年目の取り組みです。

Q5: 開花予想に使うデータは?

A5: 以下データを使用しています。

- ① 前年秋から予想作業日前までの気温観測値
- ② 予想作業日から開花時期までの気温予測値(日本気象協会ポイント予報および長期予報)

桜の開花時期には、前年の秋から春にかけての気温が大きく影響します。桜の花芽は前年の夏に形成され、その後、休眠に入ります。冬になって一定期間の低温にさらされると、花芽は休眠から覚めます(休眠打破)。休眠から覚めた後は、気温の上昇とともに生長し開花しますが、気温が高いほど花芽の生長が早く進み、開花が早まると考えられています。